

2025 年 9 月 2 日 プランナーズ EYE

Vol. 0009

ハワイにおける文化的観光の可能性。

ハワイは日本人にとって最も人気のある観光地であり、コロナ前の 2019 年には年間 150 万人もの日本人がハワイを訪れています。その構成を見ると、海外でゆっくり過ごしたい 60 歳以上が 21%と多く、家族連れや若者などが中心となっています。旅行形態を見ると、オアフ島のワイキキのビーチリゾートやショッピングが主軸となっており、宿泊日数も 4 泊 6 日、5 泊 7 日が大半で、50 年前の旅行形態とほとんど変わっていません。

しかし、コロナ後の世界の観光は、単なる訪問者数ではなく、滞在の質と地域への分散を重視するサステイナブルな観光へと舵を切り、より持続可能な観光を推奨しています。ハワイも自然環境を重視した政策などを打ち出していますが、コロナ後の日本からの観光客は、コロナ前と比較して 50%以上が減少したままで、回復の兆しがなかなか見えてこない現状です。

しかし、滞在日数は平均 5.96 日から 7.74 日へと約 30%近く伸びています。この機会に、コロナ後の観光客数を回復させ、滞在日数を増やすことを考えると、新たなハワイの魅力を多岐にわたって紹介していくことが求められます。

特にハワイの場合はリピーターへの依存率が高いので、その活性化に向けても必要なことと思われます。そういった意味から、今回はハワイにおける文化的観光の視点を取り上げます。

ハワイにおける文化的観光の視点

ハワイは単なるリゾートアイランドではなく、かつては独立した王国であり、独自の歴史文化を有した太平洋世界の重要な拠点であったこと、文化的観光の視点から見ると、その中心的であったイオラニ宮殿の歴史的意義や、観光資源としての価値をよりクローズアップする必要があります。

ネクストブレイク的に今はあまり知られていない、街や地域をご紹介しますコーナーです。観光客があまり訪れることのない魅力的な地を旅することは、旅本来の楽しみ、醍醐味を教えてください。

AUTHENTIC TRAVEL
プランナーズ EYE

イオラニ宮殿の歴史的意義

イオラニ宮殿はアメリカ合衆国で唯一の王宮建築として知られるハワイ王国時代の象徴的な建物で、カラカウア王の命によって 1882 年に建設されました。

この宮殿は、ハワイ王国が国際社会で主権国家として認められることを目指し、西洋の豪華な建築様式を模して建てられたものです。

建設の背景には、ハワイ王国が独立を維持するために、当時の先進国としての威信と文化的水準を示す必要がありました。

この宮殿の豪華な内装は、単なる王族の生活空間ではなく、国賓を迎え入れるための公的な場としての役割を強く意識して設計されたものです。

ハワイ王国の威信を示し、外国の賓客を迎える公式の場として、また当時の王族が居住する場所として機能しました。



写真提供：Hawaii Tourism Authority

イオラニ宮殿「王座の間」にある王と女王の椅子

2025 年 9 月 2 日 プランナーズ EYE

19 世紀のハワイ王国は捕鯨や砂糖を主たる産業として国際的に重要な位置を占めていましたが、アメリカ、イギリス、フランスなど列強の圧力を強く受けており、独立を維持していくためには文明国としての体裁を整える必要がありました。王国の進取性を示すため、当時の最新技術であった電灯、電話、水洗トイレが導入されました。



写真提供：Hawaii Tourism Authority

イオラニ宮殿グランド・ホールの階段

特に電気は、ロンドンのバッキンガム宮殿やワシントン D.C. のホワイトハウスよりも早く導入され、ハワイが世界の文明国と肩を並べる存在であることを誇示していました。宮殿内はハワイ王国の栄華と西洋文化の融合を象徴する空間で、即位式や公式レセプションに利用された王座の間をはじめ、王と王妃の王座が並んでいます。

青の間やダイニングルームなど、豪華な晩餐会にふさわしい空間が広がっています。特に入口正面に伸びる壮大で荘厳な階段は、王国の威厳を強調しており、訪れる人を圧倒します。地下の展示室には王族の衣装や羽で作られたマント、宝飾品が展示されていて、ハワイ王国固有の文化を感じ取ることができます。

しかし、この宮殿は栄華の象徴であると同時に、悲劇の舞台でもありました。1893 年のハワイ王政転覆後、最後の女王リリウオカラニがこの宮殿に幽閉され、王国は終焉を迎えました。その後、政府庁舎とし

て利用されるなどしましたが、1978 年に王宮としての姿を取り戻し、現在は歴史的建造物として一般公開されています。

ハワイの歴史・文化資源と観光

ビショップ博物館と篠遠先生の研究功績

2017 年に亡くなられた篠遠喜彦先生の南太平洋文化、ポリネシアの考古学的研究は大変高く評価されています。

篠遠先生の研究は、南太平洋各地で発掘された石器や釣り針の進化をたどることで、ポリネシアの人々がどのように航海し、太平洋の島々へと移住していったかを解明しました。

この研究は、ハワイの航海術復興を象徴するホクレア号の航海にも理論的基盤を提供しました。ビショップ博物館はハワイ最大の博物館であり、ハワイ王国最後の王族でカメハメハ大王の曾孫であるバーニス・パウアヒ・ビショップ王女を記念して、夫のチャールズ・リード・ビショップによって創設されました。この博物館はハワイの歴史、文化、考古学、民俗学を包括的に展示しています。



写真提供：Hawaii Tourism Authority

ビショップ博物館 ハワイ王族の肖像画

博物館の中心的存在であるハワイアンホールでは、ポリネシアの航海術やハワイアン王族の宝物などが展示され、太平洋ホールでは篠遠先生の研究分野に直結した人類学的な知見を見ることができます。

2025 年 9 月 2 日 プランナーズ EYE

古代ハワイの神殿 ヘイアウ

ヘイアウはオアフ島のみならず、ハワイ島、マウイ島、カウアイ島に見ることができます。多くは石積み
の遺構のみが残っており、周囲の自然や伝承と一体
で見ることで、当時の宗教世界が浮かび上がります。
ヘイアウには主に二つの種類があり、ルアキニ・ヘイ
アウは戦勝を祈願する国家的な神殿、マベレ・ヘイア
ウは豊作を祈願する農業に関連する神殿でした。

ハワイアンにとって神聖な場所であるため、敬意
を持って訪れる必要があります。



ヘイアウ遺跡

ハワイ島のプウコハラ・ヘイアウ

ハワイ島のヘイアウ（古代神殿）で最も見応えのあ
るものになります。カメハメハ大王がハワイ統一を
成し遂げるための予言に基づき、戦いの神クーに捧
げるために自ら建設した最後の大規模なヘイアウで
す。石造りのテラスと壁が印象的で、現在は国立史跡
に指定されています。

マウイ島のピイラニヘイアウ

別名ピイラニ王の家とも呼ばれ、建築美と圧倒的規
模で人々を魅了します。古代王権の力と建築技術を
感じさせてくれる巨大構造が魅力となっています。

オアフ島 プウオマフカ・ヘイアウ

ノースショアのワイメア湾を見下ろす高台に位置
しているオアフ島最大規模の神殿です。かつては人
間を神に捧げる儀式も行われたとされ、その立地か

ら戦略的な重要性も持ち合わせていました。

ポリネシアに見られるマラエと同系統であること
が感じられます。ハワイ諸島のヘイアウにはレリー
フや石像などはあまり残されていませんが、これは
ハワイの宗教観が空間そのものを神聖化する形であ
り、石の構造美ではなく、配置や儀礼が神聖化を表現
したためと考えられています。

ポリネシアの他地域（タヒチ、マルケサス）では
石の神像や岩刻画が多く残っている例があります。

ハワイ王国時代の政治・文化施設

イオラニ宮殿に隣接するアリイオラニ・ハレは1874
年に建設され、ハワイ王国の政府庁舎として機能し
ていた重要な建造物です。

現在はハワイ州最高裁判所として使用されており、
その前庭にはカメハメハ大王の銅像が建立されてい
ます。この銅像は1883年にカラカウア王の戴冠式に
合わせて設置されたもので、統一王朝の創始者であ
るカメハメハ大王の威厳ある姿を表現しています。

興味深いことに、この銅像は実際にはイタリアで
制作されたもので、最初に作られた銅像は輸送中に
沈没し、現在のものは二番目に製作されたものです。
沈没した最初の銅像は後に回収され、現在はハワイ
島のコハラに設置されています。



プウコハラ ヘイアウの捧げ物

古代ハワイの社会制度と建築

古代ハワイ社会を理解する上で重要なのが、カプ
制度という厳格な社会規範システムです。カプ制度

2025 年 9 月 2 日 プランナーズ EYE

は神聖性に基づく階級制度であり、アリエ（首長）、カフナ（神官・専門家）、マカアイナナ（平民）、カウワ（賤民）という明確な社会階層を形成していました。この制度は単なる身分制度ではなく、宗教的な信念と深く結びついており、特定の場所や行為、時期を神聖化し、社会秩序を維持する機能を果たしていました。

古代ハワイの建築技術は、石組み工法において高度な発達を遂げていました。ハワイ島のプウホヌア・

オ・ホナウナウ国立歴史公園では、精巧に組まれた石垣を見ることができます。この場所はプウホヌア（逃れの地）として機能しており、カブを破った者や戦争で敗れた者が避難できる聖域でした。

石垣は海岸に沿って約 305 メートルの長さで構築され、高さは最大で約 3.6 メートル、厚さは約 5.5 メートルに達します。これらの石は火山岩を精密に切り出し、モルタルを一切使用せずに積み上げられており、古代ハワイ人の優れた石工技術を物語っています。

古代の祭礼制度 マカヒキとルアウ

古代ハワイの年間祭礼の中核をなすのがマカヒキです。これは約 10 月から 2 月にかけて行われる豊穰祭で、戦争が禁止され、スポーツ競技、芸能、豊作への感謝の儀式が執り行われました。マカヒキの期間中は、各地域のアリエが税の徴収を行い、島内を巡回する重要な政治・宗教行事でもありました。

現在でもハワイ各地でマカヒキの再現イベントが開催され、古代の競技や儀式を体験することができます。ルアウは元来、宗教的な意味を持つ共食の儀式でした。イムと呼ばれる地下炉で調理された豚、魚、タロイモ、サツマイモなどを共同体全体で分かち合うことで、社会的結束と神々への感謝を表現していました。

特に重要な政治的決定や宗教的行事の際に開催されるルアウは、単なる食事会ではなく、権力の正統性を示し、共同体の結束を確認する重要な社会制度でした。

石刻文化 ペトログリフ

ハワイ各島には数千年前から刻まれ続けてきたペトログリフ（岩面彫刻）が多数残されています。ハワイ島のプウコホラ・ヘイアウ国立史跡やプウロア・ペトログリフ保存地区では、人物、動物、幾何学的模様、そして後期には西洋の馬や船なども描かれた岩刻画を見ることができます。

これらのペトログリフは古代ハワイアンの記録システムであり、出生、死亡、重要な出来事、神話的物語などが刻まれています。特にプウロア地区では 2 万 3 千以上のペトログリフが確認されており、世界最大級の岩刻画群となっています。

ハワイ諸島の文化施設群

オアフ島のポリネシア文化センターでは、ハワイを含む太平洋の島々の伝統文化が系統立てて展示されています。特にハワイ村では、伝統的な建築様式であるハレ（家屋）の復元展示があり、ティーリーフやパンダナスの葉で葺かれた屋根、ハワイアンコアの木材で組まれた骨組みなど、古代の建築技法を詳細に観察することができます。

ハワイ島のライマン博物館では、19 世紀の宣教師の生活と、その時代のハワイ社会の変化を知ることができます。宣教師の到来によってハワイ語の文字化が行われ、ハワイ初の新聞や書籍が発行されるようになった歴史的経緯が詳しく展示されています。

ハワイ諸島の観光の際には、これらの文化的観光を組み込み、ハワイ諸島の歴史を深く感じたり、ハワイアンの宗教観などを共有することは、ハワイ諸島の海をはじめとした大自然の美しさの魅力とそのプラスアルファとしてしっかり紹介することで、より深くハワイを感じてもらえるものと思います。

ハワイ観光の完全復活には、コロナ後の海外旅行復活へのキーを握っていることは明白です。それぞれの会社がそれぞれの分野で新しい魅力の提案をマーケットにしていくことが、円安などの現環境に対抗しうるプランナーとしての大いなるトライと捉えるべきだと考えます。